

【農業水利施設の魅力を知ってほしい (No.13) ; 上杉氏によって整備された西根堰 (2024年5月)】

今月は、福島県中通り地方の北部にある、西根堰を紹介する。まずは、西根堰の概要を、水士里ネット福島の「西根の郷を黄金色に変えた西根堰」(<https://www.midorinet-fukushima.jp/page-626/page-641/page-694/>)、および桑折町歴史的風致維持向上計画(https://www.town.koori.fukushima.jp/material/files/group/5/18500_70439_misc.pdf)から引用する。

関ヶ原の合戦で敗れた会津の上杉景勝は、米沢および伊達・信夫に減封となった。禄高が4分の1となったことから、新田開発の必要に迫られた。そのため、伊達・信夫領の西根郷への用水路を整備することとなった。上杉家臣・佐藤新右衛門らによって、1618年に摺上川を水源として西根郷400haを受益とする、総延長14km用水路の整備が行われた。これが現在の西根下堰である。その後、1624年に現在の西根上堰の整備が、古河善兵衛によって行われ、1633年に完成した。西根上堰の工事では「取り入れ口の岩盤の壁」や「かたがりの難所」など岩盤がとても固く工事には大変な苦勞があった。また桑折町の報告書では「西根上堰は、水路勾配が一千分の一から三千分の一という極めて緩い勾配であることも特徴の一つといえる。周囲の地形との関係から、あたかも西根堰の水が登っていると錯覚することもある。江戸時代初期としては、高度で先進的な技術に裏付けられたものであった。」と、当時の測量技術の高さを指摘している。

今回は、JR東北本線の桑折駅から福島交通飯坂温泉駅まで、西根上堰と西根下堰を行ったり来たりしながら歩いた。

1. 桑折駅から桑折町万正寺堤下まで（西根堰その1）

JR 桑折駅から 15 分ほど歩くと、西根上堰（図 1 の赤線で、本稿の図の赤線は西根上堰）と産ヶ沢川が平面交差する芝堤頭首工（写真 A）に到着する。芝堤頭首工で西根上堰と産ヶ沢川が平面交差することで、下流側水路への用水の補充が行えるようになっている。ここから西根上堰を飯坂温泉に向かい歩いていくと、写真 B のように、河岸段丘の崖線に沿うよう流下する西根上堰沿いを進む。その先に余水吐（写真 C）があり、さらに崖線沿い（写真 D）を進む。芝堤頭首工から写真 D 地点まで 1.5km くらいの距離である。



図1 西根堰その1



写真1 西根堰その1

2. 桑折町万正寺堤下から福島市飯坂町東湯野堰向まで

桑折町万正寺堤下から西根下堰（図2の水色線で、本稿の図の水色線は西根下堰）が産ヶ沢川をサイフォンで潜る藪内サイフォン（写真E）に向かう。このあたりの西根下堰は写真Fのような水路の形態である。その後西根上堰に戻ると、ある程度歩くと写真Gにあるような余水吐があるが、等高線に沿うような経路で水路沿いを進む。水路の形態は写真Hにあるように、西根下堰と似たような断面である。

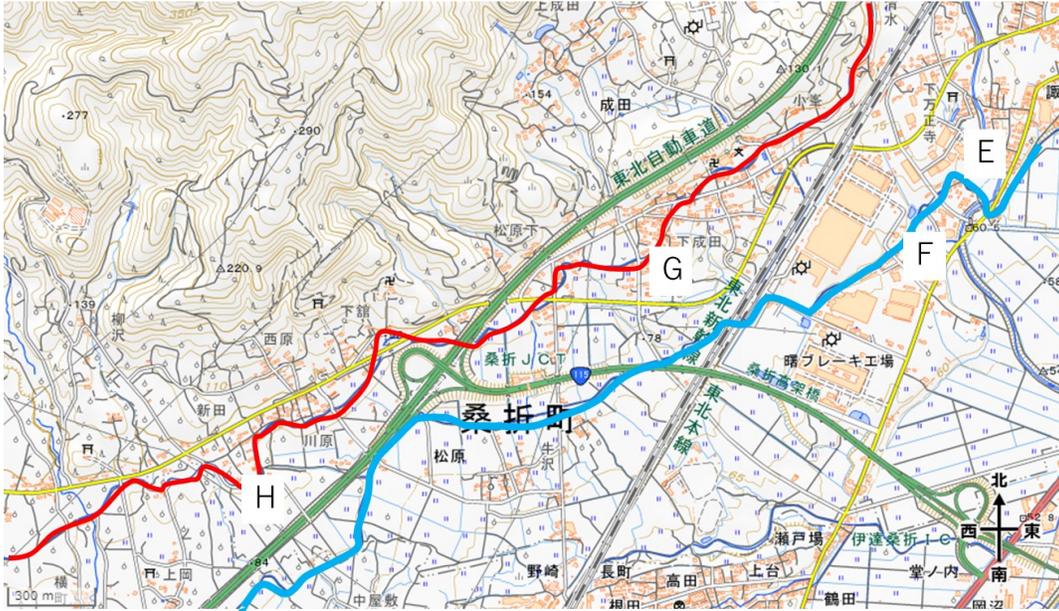


図2 西根堰その2



写真2 西根堰その2

3. 福島市飯坂町東湯野堰向から下堰頭首工まで

さらに西根上堰沿いに歩くと、水田地帯からおそらく桃と思われる樹園地地帯に回りの景色が変化する。水路上に太陽光パネルが設置（写真 I）されるような、近年では増えている、農業水利施設における再生可能エネルギーの発電施設の整備箇所沿いを抜けると、明神の樋越し（写真 J）に至る。ここで摺上川支流の米川をコンクリート橋で西根上堰が通過する。さらに進むと間もなく飯坂温泉の温泉街に入り、西根上堰のすぐ脇の摺上川に西根下堰の頭首工である下堰頭首工（写真 K）に至る。福島交通飯坂温泉駅のすぐ脇にある頭首工である。西根上堰を進むと鼻毛の隧道（写真 L）に至る。切り立った崖沿いに水路を通した苦勞が垣間見える。上堰頭首工はここから 2km ほど上流にあるが、水路沿いを歩くことが困難な場所もあることからここで切り上げた。

桑折駅から芝頭頭首工、鼻毛の隧道経由で飯坂温泉駅まで西根上堰沿いを歩くと 9km ほどの距離である。周辺は桃の産地なので、初夏などに歩くと美味しい桃が入手できるであろう。

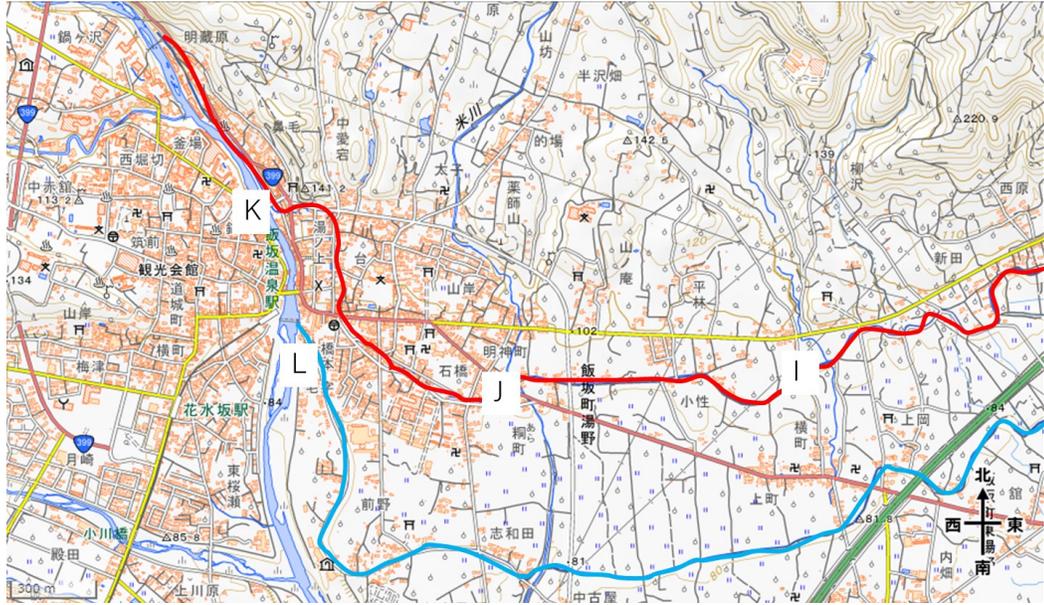


図3 西根堰その3



写真3 西根堰その3

【余談】

福島市を流れる荒川は、環境省選定の平成の名水百選に選ばれている。荒川右岸の水源である荒井堰は、途中で大規模農村公園「四季の里」の中を流下する。西根堰と併せて訪問することをお勧めしたい。福島駅からは土湯温泉行バスでアクセスできる。



写真4 四季の里